



事前セットアップガイド

AI駆動開発Claude Code研修 株式会社インフォメーション・ディベロプメント様向け

期限**11月9日（月）**まで

所要 [60min]前後

作業する場所WSL2のUbuntu 22.04

Day1 2026年11月10日（火）

事前セットアップの分担

貴社の全社手順

ツールを導入する

WSL2、Ubuntu 22.04、OpenJDK 17、Maven 3.9.15、Claude Code、VS Codeと拡張機能を入れます。

このガイド

確かめて、足りないものを足す

入ったものを確かめ、unzipと文字コードの設定を足し、Day1の配布ZIPを展開してブラウザで開きます。

全社手順に無い設定が漏れていると、Day1の最初の演習で止まります。全社手順を済ませた方も、Step 3のunzip、Step 4の文字コード、Step 5のログイン、Step 7の展開は必ず行ってください。Copilot CLIは研修で使いません。入っていても支障はないので、外す必要はありません。

11月9日（月）までに済ませてください。5つの完了条件のどれかがそろわない方は、どのStepで止まったかを、研修事務局へお知らせください。前日までにご連絡いただければ、開始までに解消できます。

7つのStep

上から順に進めてください。待ち時間が大半なので、ほかの作業をしながらで構いません。Step 7で全体がつながっているかを確かめます。

Step	中身	全社手順との関係
1	WSL2とUbuntu 22.04の確認	入っている。確かめるだけ
2	OpenJDK 17とMaven 3.9.15の確認	入っている。確かめるだけ
3	unzipとpython3の確認と導入	unzipを足す
4	文字コードの設定	全社手順に無い。必ず行う
5	Claude Codeの確認と、研修用の組織でのログイン	入っている。ログインを行う
6	VS CodeのWSL接続	入っている。確かめるだけ
7	Day1の配布ZIPの展開と、お題カードの表示	新しく行う

Step 1 WSL2とUbuntu 22.04の確認

STEP 1

Ubuntu 22.04のターミナルが開く

[5min]

なぜ要るか

研修でClaude Codeを動かすのは、Windowsの中のUbuntuです。貴社の全社手順で入っているはずなので、ここでは確かめるだけです。

手順

Windowsのコマンドプロンプト

スタートメニューでcmdと入れて **コマンド プロンプト** を開き、次を打ちます。

コマンドプロンプト

```
wsl --list --verbose
```

Ubuntu-22.04 の行のVERSIONが2なら入っています。行が無いときは、貴社の全社手順のWSL2とUbuntuの導入に戻ってください。

Ubuntuのターミナル

スタートメニューでUbuntuと入れて開きます。プロンプトが **ユーザー名@ホスト名:~\$** の形ならUbuntuの中です。続けて次を打ちます。

Ubuntu のターミナル

```
lsb_release -d  
sudo apt update
```

Ubuntu 22.04 で始まる行が出ます。sudoのパスワードは、Ubuntuを入れたときに決めたものです。

確認

- ☐ `wsl --list --verbose` でUbuntu-22.04のVERSIONが2
- ☐ `lsb_release -d` にUbuntu 22.04と出る

Step 2 OpenJDK 17とMavenの確認

STEP 2

javaとmvnのバージョンが返る

[3min]

なぜ要るか

Day2の配布フォルダは、勤怠・工数管理システムKINTAIのJavaのプロジェクトです。演習はClaude Codeの振る舞いを見比べるので、ビルドは発展課題でだけ使います。全社手順で入っているので、確かめるだけです。

手順

Ubuntu のターミナル

```
java -version  
mvn -v
```

`openjdk version "17."` で始まる行と、`Apache Maven 3.9.15` の行が出れば入っています。

Tips `mvn: command not found` と出たら、全社手順のMavenの節にある `~/.bashrc` への追記が済んでいるかを確認してください。追記したあとは `source ~/.bashrc` を打つか、Ubuntuを開き直します。

確認

- ☐ `java -version` が17系を返す
- ☐ `mvn -v` が3.9.15を返す

Step 3 unzipとpython3の確認

STEP 3

unzipとpython3が動く

[5min]

なぜ要るか

配布ZIPはUbuntuの中でunzipを使って展開します。全社手順にはunzipが入っていません。python3はUbuntuに最初から入っていて、演習で作る画面をブラウザに配るときと、Day2とDay3のHooksで使います。

手順

Ubuntu のターミナル

```
sudo apt install -y unzip  
unzip -v | head -1  
python3 --version
```

`UnZip 6.00` で始まる行と、`Python 3.10` で始まる行が出れば済みです。すでに入っている場合、aptは何も変えずに終わります。

Tips python3に追加のライブラリは入れません。研修のHooksとツールは、python3の標準の機能だけで動くように作っています。

確認

- ☐ `unzip -v` がUnZip 6.00を返す
- ☐ `python3 --version` が3.10系を返す

Step 4文字コードの設定

STEP 4 locale charmapがUTF-8を返す

[3min]

なぜ要るか

全社手順には無い設定で、必ず行ってください。Ubuntuの初期状態のままだと、文字コードがUTF-8になっていないことがあります。そのまま進めると、日本語のファイル名や、Claude Codeが書いた日本語が `?` に化けます。

手順

Ubuntu のターミナル

```
locale charmap
```

`UTF-8` と返れば、何もしなくて構いません。Step 5へ進んでください。 `ANSI_X3.4-1968` など別の値が返ったら、次の3行を打ちます。

Ubuntu のターミナル

```
echo 'export LANG=C.UTF-8' >> ~/.bashrc
source ~/.bashrc
locale charmap
```

最後の行で `UTF-8` と返れば設定できています。

確認

- ☐ `locale charmap` がUTF-8を返す

Step 5 Claude Codeの確認と研修用の組織でのログイン

STEP 5 Claudeを起動すると入力欄が出る

[15min]

なぜ要るか

研修の主役になる道具です。Claude Codeは全社手順で入っていますが、使うには研修用の組織のアカウントでのログインが必要です。

研修事務局から、研修用の組織への招待のメールが届きます。招待を承認したアカウントでログインしてください。無料のClaude.aiのプランではClaude Codeを使えません。招待が届いていない場合は、セットアップを始める前に研修事務局へお問い合わせください。

手順

Ubuntu のターミナル

```
claude --version
```

2.1.300 (Claude Code) のようにバージョンが返ります。数字は導入した時期で変わります。command not found のときは、全社手順のClaude Codeの節に戻ってください。

続けてログインします。

Ubuntu のターミナル

```
claude
```

- 最初に文字の色の選択（Choose the text style）が出たら、Enterで既定のまま進めます。
- ログインの方法を聞かれたら、Claude account with subscription を選びます。
- ブラウザが開いたら、招待を承認したアカウントでログインし、Claude Codeからのアクセスを許可します。WSLではブラウザが開かないことがあります。そのときは、ターミナルに出るURLをコピーしてWindowsのブラウザに貼ってください。
- 許可のあとにブラウザにコードが出たら、コピーしてターミナルに貼り、Enterを押します。
- フォルダを信頼するかを聞かれたら、↓キーで Yes, I trust this folder を選んでEnterを押します。最初はNoの側が選ばれています。
- ターミナルに戻り、入力欄が出ていれば済みです。
- /exit と打って、いったん終了します。

組織の選択に気をつけてください。ログインの画面で組織を選ぶ欄が出たら、研修用の組織を選びます。個人のアカウントや別の組織でログインすると、研修の利用枠を使えません。

確認

- ☐ もう一度 `claude` を起動したとき、ログインを求められずに入力欄が出る

Step 6 VS CodeのWSL接続

STEP 6 VS Codeの左下にWSL: Ubuntu-22.04と出る

[5min]

なぜ要るか

研修では、WindowsのVS CodeをUbuntuにつなぎ、VS Codeの中のターミナルでClaude Codeを動かします。ファイルの中身やClaude Codeの変更は、VS Codeの画面で読みます。VS Codeと拡張機能は全社手順で入っているので、ここではつながるかの確認だけです。

手順

- 1 WindowsでVS Codeを起動します。
- 2 左下の `><` のアイコンを押し、 `Connect to WSL` を選びます。日本語の表示では `WSLへの接続` です。
- 3 初回はVS Code Serverのダウンロードが自動で始まり、数分かかります。
- 4 左下に `WSL: Ubuntu-22.04` と出たら、つながっています。
- 5 `ターミナル` → `新しいターミナル` で、画面の下にターミナルが開きます。研修では、ここでclaudeを起動します。

Tips 拡張機能のWSL (`ms-vscode-remote.remote-wsl`) が入っていないと、 `Connect to WSL` が出ません。全社手順のVS Codeの節で入れてください。

確認

- ☐ VS Codeの左下に `WSL: Ubuntu-22.04` と出る
- ☐ VS Codeのターミナルのプロンプトが `ユーザー名@ホスト名` の形

Step 7 Day1の配布ZIPの展開とお題カードの表示

STEP 7 ブラウザにDay1のお題カードが出る

[10min]

なぜ要るか

Day1の演習で使う配布フォルダを置き、ここまでの6つがつながっているかをまとめて確かめます。当日の演習でも、同じ手順で作った画面をブラウザで開きます。

手順

Windowsのブラウザ

教材サイトのトップのDay1の欄から `idcc-day1_20261110.zip` をダウンロードします。保存先は既定の `ダウンロード` のままで構いません。

Ubuntuのターミナル

Ubuntu のターミナル

```
cd ~  
cp /mnt/c/Users/*/Downloads/idcc-day1_20261110.zip ~/  
unzip -o idcc-day1_20261110.zip  
rm idcc-day1_20261110.zip  
ls ~/idcc-day1
```

`~/idcc-day1` ができ、`index.html`、`data`、`はじめにお読みください.md` が並べば展開できています。ZIPの中身が `idcc-day1` のフォルダから始まるので、展開先は指定しません。

続けて、お題カードをブラウザに配ります。

Ubuntu のターミナル

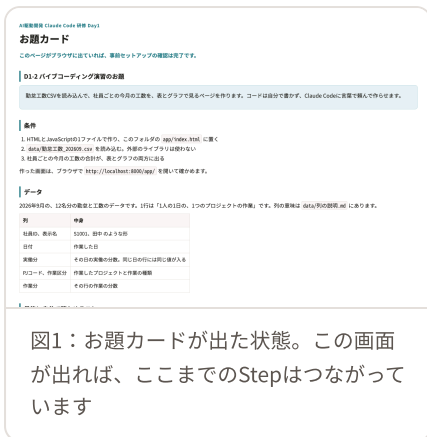
```
cd ~/idcc-day1  
python3 -m http.server 8000
```

`Serving HTTP on 0.0.0.0 port 8000` と出たら、Windowsのブラウザで次のURLを開きます。

ブラウザのアドレス欄

```
http://localhost:8000/
```

「このページがブラウザに出ていれば、事前セットアップの確認は完了です。」と書かれたお題カードが出れば成功です。確かめたら、ターミナルでCtrl+Cを押して止めます。



VS Code

WSLにつないだVS Codeで **ファイル** → **フォルダーを開く** を選び、 **/home/ユーザー名/idcc-day1** を開きます。左のエクスプローラーに **data** と **index.html** が見えれば済みです。

Tips Day2とDay3の配布ZIPも、同じ手順で展開します。どちらも各回の前日までに、教材サイトのトップに置きます。

確認

- `~/idcc-day1` で `python3 -m http.server 8000` を動かし、Windowsのブラウザで `http://localhost:8000/` のお題カードが開く
- VS Codeで `~/idcc-day1` を開ける

完了条件

CHECK 11月9日（月）までに、5つがそろっていれば準備は完了です

- ☐ VS CodeがWSLにつながり、`~/idcc-day1`を開ける（Step 6）
- ☐ `claude`を起動すると、ログイン済みの状態で入力欄が出る（Step 5）
- ☐ `locale charmap`が`UTF-8`を返す（Step 4）
- ☐ `~/idcc-day1`で`python3 -m http.server 8000`を動かし、Windowsのブラウザで`http://localhost:8000/`のお題カードが開く（Step 7）
- ☐ `java -version`が17系、`mvn -v`が3.9.15を返す（Step 2）

研修中のClaudeの利用量

研修では、研修用の組織の利用枠を全員で使います。研修の演習は、応答を短くさせる設定と、同時に動かすAIを1体までに絞った手順で作ってあります。研修の時間の外で長く使い続けることは控えてください。

事前セットアップで行うのは、Step 5のログインの確認までです。ログインできたら、Claudeに作業を頼まずに `/exit` で終了して構いません。利用量の見方は、Day1の最初に講師が見せます。

つまづいたとき

claudeというコマンドが見つかりません

パスがまだ効いていません。`exit` でUbuntuを抜けて開き直してください。それでも変わらないときは、全社手順のClaude Codeの節にある `~/.bashrc` への追記を確かめます。

ログインのあと、組織や利用枠のエラーが出ます

研修用の組織への招待を承認していないか、別のアカウントでログインしています。Claude Codeの入力欄で `/logout` と打ってから `claude` を起動し直し、招待を承認したアカウントでログインしてください。

ZIPのコピーで「そのようなファイルはありません」と出ます

ダウンロードの場所が既定と違うか、ファイル名が変わっています。次のコマンドで探せます。

Ubuntu のターミナル

```
ls /mnt/c/Users/*/Downloads/ | grep idcc
```

見つからないときは、エクスプローラーでZIPの場所を確かめます。`C:\Users\yamada\Downloads` なら `/mnt/c/Users/yamada/Downloads` と読み替えてください。

日本語のファイル名が記号の羅列になっています

Windowsのエクスプローラーで展開してからUbuntuへコピーすると起きます。`rm -r ~/idcc-day1` でいったん消し、Step 7のとおりにUbuntuのターミナルでunzipを使って展開し直してください。文字が化けるときは、Step 4の文字コードの設定も確かめます。

ブラウザでlocalhost:8000が開きません

まず、ターミナルに `Serving HTTP on 0.0.0.0 port 8000` が出ているかを見てください。出ているのに開かないときは、Ubuntuの別のターミナルで `curl -I http://localhost:8000/` を打ちます。`200 OK` が返るなら、WindowsとWSLの間の通信の問題なので、当日の開始前にご相談ください。

ポート8000が使用中と出ます

前に動かした `python3 -m http.server` が残っています。そのターミナルでCtrl+Cを押して止めてください。見つからないとき

は、`python3 -m http.server 8001` のように番号を変え、ブラウザでも `http://localhost:8001/` を開きます。

会社のPCで管理者権限がありません

研修で使うPCは、管理者権限のある共通ユーザーで準備していただく前提です。unzipの導入にsudoが要ります。導入できない場合は、研修事務局へご連絡ください。

詰まったところを問い合わせたい

次の2つのコマンドの出力を添えて、研修事務局へご連絡ください。どのStepで止まったかも書いてください。

Ubuntu のターミナル

```
claude doctor
locale
```

`claude doctor` は、Claude Codeの導入と設定の状態を診断します。出力にアカウントのメールアドレスが含まれる場合は、その行を消してから送ってください。



AI駆動開発Claude Code研修 事前セットアップガイド

© Givery, Inc.

※お題カードと勤怠工数のデータは、研修のために作った架空のものです。